

## TOPICS

★山口巖さんが

神戸マイスターに

マキシン



平成9年度神戸マイスターに選ばれた山口巖さん

10月9日、神戸市産業振興センター3階ホールで平成9年度神戸マイスター認定式が行われ、今年は5名の方が新たに選ばれました。その中には婦人帽子マキシンの山口巖さんの姿も。エレガントでフォーマル、ニーズにあった繊細な仕立てが高い評価を得ました。

昭和28年の入社以来42年間、研鑽を重ね、日本人に合った婦人帽子の秀作をつくりだしてきました。アトラントオリンピックの制帽、皇室・雅子妃殿下の帽子、全日空、JAL(旧)のスチュワーデスの制帽などを今までに手掛けてこられました。

■お問い合わせ

婦人帽子マキシン

〒650 神戸市中央区北長狭通2・6・13

☎078・331・6711

営業時間10時～18時 日曜休

## CONGRATULATION!

★10周年記念

UCC珈琲博物館

ポルトビアー81で人気を博した巨大なコーヒーカープのバビリオンが、UCCコーヒーマuseumに生まれ変わって10周年を迎えます。世界初のコーヒー専門の博物館として話題となりました。故上島忠雄会長の喜寿にあたり開館して以来、コーヒーの生い立ちや伝播の歴史、栽培方法などを展示、映像でわかりやすく紹介されています。

「博物館は未来永劫にわたって未完成」と諸岡博館長の持論をもとに、10年を節目に、さらに新しい時代の博物館づくりが期待されます。

■お問い合わせ

UCC珈琲博物館

神戸市中央区港島中町6・6・2

ポトライナー「南公園」駅前

☎078・302・8880

営業時間10時～17時 月曜休 祝日の翌日休

## 神戸百貨会だより



## NEWS

★「婚礼衣裳大展示会

つるや衣裳店

「つるや衣裳店」の大展示会が12月20日(土) 21日(日) 10時～17時、ポートアイランドの国際展示場2号館で開催されます。桂由美をはじめ、ジバンシイ、ミラ・シヨーンなど人気ブランドの新作が洋・和装とも一堂に集まる、神戸では最大の規模。衣裳選びには専門のコーディネーターがアドバイスしてくれるので、この機会にぜひチェックを。

■お問い合わせ

つるや衣裳・神戸元町店

☎078・321・0360



新作ドレス中心の多彩なラインナップ

## PRESENT

★「木の城」を3名様に

オークシヨップ富屋



手づくりの「木の城」

家具の老舗「オークシヨップ富屋」から素敵なプレゼン。中世のヨーロッパ古城をイメージして、一本の木をそのまま切り抜いた「木の城」(1000円相当)を3名の方に。お城の突出部を軽く手で押すと、引込む仕組みになっていて、なかなかのアイデア商品。

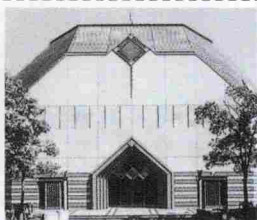
■お問い合わせ

〒650 神戸市中央区下山手通

3・1・18 ツインズストアビル4F

月刊神戸っ子「木の城」プレゼント係

(高橋)まで



10周年を迎えたUCCコーヒーマuseum

## GOODMID-A NOME 97

★神戸ブランドの洋菓子  
を思う存分

神戸ポートピアホテル

10月7日、第4回神戸洋菓子パラダイスが神戸ファッションフェスティバルの一環として「大輪田の間」で開催されました。

神戸の洋菓子会社13社15ブランドが参加し、昨年同様「デキスタシオン・パティ」のスタイルが。デキスタシオンとは、フランス語で色々なものを少しずつ試食するという意味。

モロゾフ、ドンク、ユーハイム、ユーハイム・コンフェクト、神戸風月堂、本



全身チョコレートで作られた約50センチほどの人形



外国人シェフが盛りつけを担当（ドンク）



創業100周年。風月堂下村俊子社長の姿も

高砂屋、ゴンチャロフ、神戸ポートピアホテルなど、神戸百店会の8社も出店。

シェフ自慢の洋菓子が食べ放題とあって、広い会場に空き席がなくなるくらい、多数のお客さんが。冒頭のあいさつで松宮隆男モロゾフ会長も「私の話より、皆さんの頭の中は、お菓子のことでいっぱいなのでしょう」と。その通り各ブースに用意された洋菓子は瞬く間になくなってしまう。ちなみにお客さんの8割は女性客。ケーキでいっぱいになったお皿を3つも置く方も。

## Xmas D-NZUR \$105

★浅井順子ディナーコンサート

神戸ポートピアホテル

端正で気品のある歌声で、多くのファンを魅了しているソプラノ歌手浅井順子さん。彼女のクリスマスディナーショーが、12月16日（火）、「偕楽の間」で予定されています。時間は午後7時（受付6時30分）から9時まで。料金はお一人様、お食事、お飲み物、サービス料、税込み価格18000円。

また注目度NO.1のテノール歌手、畑儀文さんも賛助出演。すばらしい歌声でポピュラーなイタリア歌曲の数々をお楽しみください。

■お問い合わせ

神戸ポートピアホテル

神戸市中央区港島中町6・10・1

078・302・1111



浅井順子さん



畑儀文さん

## NEWS

★新鮮な神戸地ビールを

シャンテ・クレール



神戸地ビールセット（1100円）

JR三ノ宮駅構内にある三宮ターミナルホテルの「シャンテ・クレール」で、生ビールセット（1000円）と神戸地ビールセット（1100円）を実施中です。どちらのコースも、ジョッキ1杯とシェフが薦めるオードブル5品という内容。神戸地ビールは、熟処理しておらず、モルト100パーセントの新鮮な味わいが楽しめます。

ホップのアロマと苦味のバランスは絶妙で、コクのある濃色ビールです。酵母が生きているので、ビタミン、ミネラルが豊富なヘルシーメニューです。

■お問い合わせ

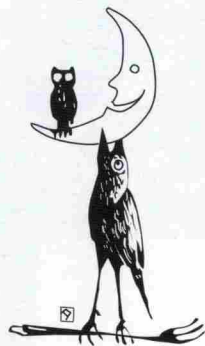
シャンテ・クレール

神戸市中央区雲井通8・1・2

JR三ノ宮駅中央口三宮ターミナルホテル1F

078・232・1630

## ぴっと・いん



### ★カマドで炊いた なつかしいご飯の味

甲南漬でおなじみの高嶋酒類食品(株)が、昭和5年に建てられた旧社長宅の日本間で、「平介茶屋」をオープンした。

特注の竈で魚沼産のコシヒカリを炊いている。その自慢のご飯に、甲南漬の自慢の三品、旬の野菜を糠漬けにしたサラダ、無添加で三年間ゆっくりと熟成させた味噌を使っ

たみそ汁とごま豆腐にさらわのみそ漬、そしてデザートがついたメニューが900円。

甲南漬三品は、季節ごとに



連日女性客でにぎわう

変わり、秋の三品は、千成り茄子のからし漬けと椎茸の甲南漬寄せ揚げ、うずらの甲南漬巻き揚げで、甲南漬がいろいろな食材と組み合わされて新しい味わいで楽しめる。

人数分のご飯を炊くので、できるだけご利用前日の12時までに予約を。また、実際にご飯を炊いている様子も見学できる。

#### ■平介茶屋

神戸市東灘区御影塚町4・4・8

☎078・842・2508

営業時間 11時半～13時半

日曜・祝日休み

### ★手打ちうどん&居酒屋

JR元町駅前に8月1日オープン。「ぶっかけてい」は、100%手打ちのうどんと共に夜にはシャレた一品料理が楽しめるお店。

「水と粉だけで作ってますから、1時間も経つと麺がゆ



和洋ミックスのモダンな店内

かけ定食880円、上定食1500円などもある。

#### ■ぶっかけてい

神戸市中央区元町通2・9・1

元町プラザビル2F

☎078・392・3987

営業時間 11時～15時 17時～22時

### ★しょうちゃんの味は 不滅です

震災後の96年6月に再オープンした鉄板・お好み焼きの店。「大阪、広島とお好みの店は数多く食べ歩いたけれど、やっぱりウチのが一番うまいと思います」と店長・住本博さん。深夜までの営業で、客席30席に若い女性から年輩の男性まで客層は幅広い。ちょっと飲んだあとのお好みはまた格別に美味しいのだそうだ。人気メニューはてっちゃんとうふ800円、そばめし900円など。店長としてはコロコロステーキ3500円、



「しょうちゃんの店名に特に意味はないんです(笑)」



## ★エーデルワイス 比屋根社長の還暦を祝う

目躍如。

また、今年は60歳。

スイス菓子の株式会社エーデルワイス（尼崎市浜町）の比屋根毅社長が毎年開く『エーデル会』が、今年も9月1日にホテルニューアルカイックで、約3000人が集い盛大に開催された。

特に今年は出身地の沖繩・石垣島石垣市長から『名誉市民賞』を贈られるという栄誉を受けて、成功者としての面

目躍如。選暦を迎えて赤いチャンチヤンコを贈られたが、ケーキカットが終わるや早々に脱いでしまうというシャイぶり。「今年もエーデル会に沢山集まっていたのでありがたう。これからも頑張ります」とお孫ちゃんに囲まれて、ニコニコ顔だった。エーデルワイス出身のツマガリを始め、門下生も成功者が多く、比屋根社長はますますお若い。

## 年エーデルワイス会



名誉市民賞おめでとうございます



可愛い「お孫ちゃん」と共に



ケーキには60本のろうそく！

スペシャルしょうちゃん焼き2000円（2〜3人前）をおすすめしたい、のだから、新しいものにも挑戦するが、「いつ食べても変わらない庶民の味」がしょうちゃんの自慢。気さくで根アカな住本さんの人柄にファンも多い。寒くなってきたら、広島から取り寄せたおたふくソースにアツアツを食べに行こう！

■しょうちゃん

神戸市中央区加納町4・6・3

高山ビル1F

☎078・331・2019

営業時間 17時〜2時 日曜定休

## ★それぞれのスタイルに 合わせて

震災前は「味道園」の名で知られていた焼き肉・肉料理のお店が、名を改め「鶴参」として再オープン。焼き肉は質よりも量などと言っている諸君には、ぜひ一度食べてもらいたい「上質」の肉料理が堪能できる。

コースは2種、鶴コース7500円と参コース5500円がある。どちらもお刺身、煮込み、焼き物が構成。「お口直し」的な煮込みは同店のオリジナルで、テールやもつの旨みがたっぷりとしみ込み、



鶴澤義一さん（右端）も無類の酒好き？

「濃いタレで味をごまかしている店があるけど、あれはダメ。いいものは塩、こしょうだけで充分なんですよ」と、鶴澤義一さん。素材にはこだわりが見える。

お客さんの中にはワインのソムリエなどいて、この肉にはこのワインとばかりに酒持参でやってくる。「組み合わせはお客さんの自由。自分で合うと思ったらそれで食べてもらうのが一番です。僕自身が基本的に自分がうまくいったらそれでいいという考え方ですから（笑）。太っ腹のご主人との会話も楽しい。これからの季節には牛しゃぶ鍋（要予約）もおススメです。

■鶴参

神戸市中央区三宮町3・2・10

☎078・251・1987

営業時間 17時〜23時 火曜定休

## ポケット ジャーナル



### ★21世紀の関学の顔 新大学図書館誕生

関学といえば、時計台。読者の中にも時計台とその下にある図書館で勉学に勤しんだ思い出をお持ちの人も多いだろう。その関学のシンボルでもある図書館がこの10月、関西では最大級の最新鋭大学図書館としてグランドオープンした。新図書館の開館式には、同校をはるか昔に卒業した本誌編集者（S&Y）が参加。ああ今の時代に学生だったら……と悔し涙のレポートと思いきや、最後には笑顔もカムバック（なぜ、笑うかは最後まで読めばわかります）。



総工費約100億円をかけた新図書館は、地上3階・地下1階建て

#### □英知集結する最先端ゾーン

新図書館は、旧図書館の3倍の規模。直接手に取って閲覧できる全面開架式が導入されている。日本でも珍しい「スミス著作文庫」など貴重な資料を含む蔵書数は約百万冊、閲覧座席は、千七百席に及ぶ。高度情報化社会に対応する学術情報の受信・発信基地として各階にパソコン二十八台、四つのパソコン室に八台が設置され、国内外のデータベースやニューメディアにアクセス可能。

#### □自然と調和した 学びの環境演出

21世紀のインテリジェント図書館は、自然の光を十分に取り入れた設計。広々とした中央吹き抜け、地下階のサンクンガーデン（大きな堀りこみ）など、全館とも明るく快適な雰囲気。またアメニティー性の高い空間として創られ

たアートスペースも、従来の図書館の枠を越えた新しい特徴といえる。今田寛同校学長も開館式で語っておられたが、まさにここから生まれる



「浮くかたち—垂—」植松奎二

知的興奮「！（感嘆符）」をイメージするような植松奎二氏の野外彫刻をはじめ、潤いと変化に富んだ芸術作品の数々が図書館内外に設置されている。

#### □関学生以外に門は開かれる

その優れた設備・機能・環境を知っても卒業してしまっただけ早い。実は、この新図書館「開かれた図書館」として、来年4月より申込制で卒業生や近隣住民、官公庁やキリスト教会などに公開予定。関学はもちろん、神戸の教育、研究を支える中核となり、21世紀へと切り開かれていく学園創造の場として期待度大！の図書館である。

問合わせ先・関西学院大学図書館  
西宮市上ヶ原1-1-155  
電話0798・54・6121  
<http://www.kwansei.ac.jp/>

### ★誕生日ありがとう運動

#### 関心

このコーナーを担当して十九月。メディアから流れる障害という言葉に耳を傾ける事が多くなりました。

先日NHKの特集で、障害者美術教育にたずさわった画伯の



ことをやっていました。施設の人達の描いた絵は色彩があざやかでとてもきれいでした。物の形にとらわれず心で描いているので、絵から気持ち伝わって来ました。私はその中で猫の絵が一番気に入りましたが、猫の大好きな人でなければ描けないあたにかい絵です。街を歩いても「障害者作品展」とかあると足が向いてしまいます。ハンディを克服しようとしている人は、今ある能力を最大限に駆使している人の作品。それぞれ個性があります。作品の出来不出来は関係ありません。

このコーナーにより、いろいろな世界に接することができました。感謝しています。

「誕生日ありがとう運動」に両手やテレイ等を送つてくれた人達もその行動によって、少しでもハンディを持って生活している人達に目を向けてもらえたうれしさがります。そして、彼らの純粋さをあなたが目にみてもうらなれたら、重の喜びです。

(M・E)

誕生日ありがとう運動本部  
〒650神戸市中央区橋通4・2・2  
菊水模型ビル3F（湊川神社西）  
TEL・FAX078・660・1157

## ★「芸術にできること」とは？芸術とヘルスケア会議開催

高齢化社会の到来により、健康で豊かな生活を送るための方法として、芸術のもつ多様なポテンシャルが注目されている。

### 「芸術とヘルスケア会議」

では、医療、福祉、教育、まちづくり、文化支援など、さまざまな立場の人がジャンルを越えて、人間の心と身体に及ぼす芸術の可能性を探求。全3日間の行程で、講演やシンポジウムのほか、楽しいパフォーマンスや展覧会も行われる。

芸術を、自分を見直す絶好の機会。1日だけの参加もできる。

■日程 11月7日(金)～9日(日)

場所 神戸ファッション美術館

(六甲アイランド内)

参加費 3日間全日程参加者

2万円(学生1万5千円)

1日間参加者8千円(学生6千円)

定員 400名(先着順)

申込書(事務局に請求)に必要事項を記入の上、郵便またはFAX



会議で展示される「上海金農民書院」(中国)

で左記まで申し込む。申し込みと同時に、郵便局より備え付けの振込用紙にて参加費を振り込むと、事務局で確認でき次第、参加証が送られてくる。

●芸術とヘルスケア会議実行委員会事務局 〒630 奈良市六条西3・25・4 財団法人たんぼの家内 TEL0742・433・7055 FAX0742・499・5501

郵便振替009950・111107364 芸術とヘルスケア宛

## ★食の秋を満喫

### オークラ「お料理フェア」

7月1日、新たな歴史を築き始めた香港。ホテルオークラでは名門、マンダリンオリ



マンダリンオリエンタル料理長  
リュウ・シック・クワン氏

エンタルの料理長を招いて世界に誇る中国料理の神髄を披露する。

また、季節ごとに開催するグルメストリートでは、冬の北海道フェアを予定。特別メニューを特別料金で提供するほか、フェア利用者でアンケートに答えた人の中から抽選で計78名に素敵な商品をプレゼント。

### ●マンダリンオリエンタル中国料理フェスティバル

11月3日～9日 中国料理レストラン「桃花源」で開催

●北海道フードフェア冬のグルメストリート

11月15日～12月14日 全レストラン・バーで開催

## ★21世紀へとだけ！

### イーブンからの風

男女共生社会の実現に向けて様々な事業を展開する兵庫県立女性センター・イーブンは今年10月、オープン5周年を迎えた。これを記念して、同センターでは左記のような催しを企画、参加者を募っている。併せて、「キーワード」で読み解く女と男」と題したセミナーも随時開催していく。

### □兵庫県立女性センター

#### 5周年記念事業

●復興ひょうごのエンパワメント会議 「女と男の21世紀を描く」 11月15日(土) 13時半～16時半 神戸クリスタルタワー3階ホール 男女300名

●女性起業家支援会議 「成功する！失敗する？ 鍵は人脈づくり」 12月13日(土) 13時半～16時半 県立女性センター1セミナー室 女性起業家と起業をめざす女性120名

### □男女共生セミナー

●女と男のいい関係！パートナーシップを考える！ 11月

## ■神戸の本棚

### 「六甲の風にのって」

鈴木信一著



鈴木信一さん

「六甲全縦走」という言葉を耳にしたことがあるだろうか。晩秋の一日を56kmの山歩きにかけける肉体と精神の限界への挑戦。本書は、植村直己を愛し、自らを「今でも大航海時代のような世界を夢見ている人間」という著者の「完走」の記録である。ベース配分、休憩、食事、靴や着衣に及ぶまで、充分な検討を加えられた適切なアドバイスが初心者には心強い。クライマーの必読書。1000円＋税 申込受付 TEL0798・511・3161

### 「手づくり絵本が国境を越えた」

箕浦志保著



出版倶楽部  
1800円＋税

小さい頃、「学校ごっこ」が大好きだったという著者。幼稚園教諭から一貫して幼児教育に携わり、84年の「あかいほつべのぼの」以来、毎年園児と保育者による手づくり絵本を出版している。本書は独創性ある保育活動を綴ったボボちゃん先生の半生記。未来の主人公たちを相手に、「私は今も形を変えた「学校ごっこ」を続けているのかも知れません」



8日(土) 15時〜17時

●CMの中の女性像・男性像

イメディア・リテラシーを考  
えるー 11月29日(土) 13時  
半〜15時半 など

場所 明石公園内 緑の相談  
所研修室

募集対象 県内在住または在  
勤・在学の男女60名(先着順)

受講料 2000円

記念事業・セミナーの申し込  
み・問い合わせ 兵庫県立女

性センター 〒650神戸市  
中央区東川崎町1・1・3神

戸クリスタルタワー8F T  
EL078・360・855

0FAX078・360・8  
558

\*一時保育もあります(2歳  
以上就学前、無料・要予約)。

## 花時計



### 人間って素晴らしい

今年も「井植文化賞」の表  
彰式が塩屋のジェームス山に  
ある井植記念館で。9月4日  
のことである。最近はいろい  
ろな文化賞が設定され、こん  
な機会が増えてきた。いつも  
感動的な場面に出会うことに

### ★小ざくら会・秋の演目

花柳吉叟さん指導による小

ざくら会の秋の番組が決定。

長唄「鶴亀」「松竹梅」、清元

「うかれ坊主」「幻お七」、大和

楽「鐘」「花吹雪」、義太夫

「阿波の鳴門」など華麗な邦舞

の世界を展開する。

■小ざくら会

とき 11月9日(日) 10時開場、

10時半開演

ところ 神戸文化ホール(大倉山

〈特別出演〉花柳芳里

〈賛助出演〉若柳吉古優ほか



花柳吉叟さん

なる。受賞者の活動は実に素  
晴らしい。

井植文化賞の今年の受賞者

は、佐伯敏光さん(作家) 〓

文化芸術部門、水野耕作さん

(神戸大学医学部教授) 〓科学

技術部門、池口善英さん(神

戸新聞厚生事業団理事長) 〓

社会福祉部門、戸谷松司さん

(姫路市立美術館館長) 〓地域

活動部門、山本靖夫さん(写

真家) 〓報道出版部門、古澤

峯子さん(神戸日豪協会副会

長) 〓国際交流部門の6人。

それぞれの活動が選考委員

によって紹介されるが、素晴

### ★光り輝くビジョンを JC新理事長決定



奥井秀樹氏

1998年度、(社)神戸

青年会議所の第40代理事長に

奥井秀樹氏(奥井電機(株)

専務取締役)が就任すること

が決まった。奥井氏は90年

入会、地域団体交流委員会委

員長、第2アニバーサリープ

ログラム委員会委員長などを

経て、97年、副理事長。阪大

卒。36歳。

らしいの一語に尽きる、見事  
な業績である。

受賞者を代表して謝辞を述

べられた戸谷さんは「都市と

は何か、都市とは人間である」

と話された。まさに、都市を

支えるのは容れ物ではない、

人間の活動が都市を創るのだ

と思う。アクティブで不退転、

輝かしい人間の文化的活動が

ある街はすぐれた都市になる。

つくづくそう感じ取れた。こ

の視点から考えると文化は文

明を先導し、文明は文化を醸

成すると言えるだろう。文化

を創る人たちに敬意。Y・Y

## KOBE POST

★関西テレビ新社屋完成に伴い、  
報道局報道部(下室二部部長)か  
ら移転のお知らせが。〒530大  
阪市北区扇町2・1 TEL0  
6・314・8808(報道部代  
表)

★朝日新聞神戸支局法被部支局  
長は9月1日より大阪本社地域報  
道部へ。後任には中治俊行氏が着  
任されました。TEL078・3  
31・4144

★嵯峨御流神戸所長の吉田泰巳  
氏が「嵯峨御流・吉田泰巳の世界  
」折りのいけばなを求めて、に神  
戸新聞出版センターより刊行。兵  
庫庫の陶芸家34氏との出会い。オ  
ールカラー128頁(8500  
円十税)。10月18日(土) 11時半よ  
りホテルオークラ神戸で出版記念  
会を開催。

★漫画家の高橋孟さんが亡くなら  
れて6ヵ月。10月18日(土) 18時  
より、作家の山辺聖子さん、カモ  
カののおちゃんを代表発起人とし  
て、生田神社会館4階ホールで  
「高橋孟さんを偲ぶ会」が開かれま  
した。

★神戸新聞主筆、元家庭養護促  
進協会理事の長島晴雄氏が、9月  
24日亡くなられ、27日平安祭西  
神会館で御葬儀が。享年78歳。

★(株)チクマ神戸本店の竹馬一  
郎氏(53歳)が、心臓マヒのため  
1月18日に亡くなられたとの事  
お知らせが遅れましたが、ご冥福  
をお祈りいたします。

★(株)神和、本多建設工業(株)  
代表取締役社長・本多博明氏は9  
月1日より〒650中央区港島  
6・6・2神和ビル3・7Fに総  
合本事務所を新設。

★(有)大京(代表取締役・国城  
年子)が事務所移転。〒650中  
央区北長狭通3・7・6サニーハ  
イツ鯉川601号TEL078・  
322・2185/322・211

86FAX078・322・211  
87

## アリガタバチ

1971年(昭和46年)頃、京阪神地方の公営集合住宅で1.5mm程の小さいアリにさされる被害が続出した。

初めは大阪や神戸のPCO業者がアリと思って駆除していたが、昭和48年頃になるとその被害があまりにひどく、住民達が辛抱しきれなくなり、各地の保健所や衛生局、住宅局に電話がかかり大騒動になった。

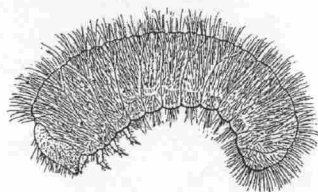
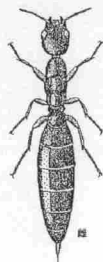
昭和48年に、神戸市の住宅局より兵庫県ベストコントロール協会にその虫の調査の依頼があった。

神戸大学農学部奥谷先生の所へ、その虫の同定をお願いした。先生はその虫を顕微鏡で見えていたが、この虫はアリのようなが私はハチではないかと思う。ハチの専門家に相談しましょうと早速手配して下さった。10日程して連絡があり、この虫はやっぱりハチでした。アリガタバチ科のクロアリガタバチである。昭和の初め、畳について大騒動になった事があったとその時の調査の書類のコピーをいただいた。

このクロアリガタバチは畳の中にいるクシヒゲシバンムシの幼虫を針で刺して麻痺させ、その体に卵を産みつける。卵がふ化するとアリガタバチの幼虫は麻痺したまま生きているシバンムシの幼虫の体液を吸って成長する。

神戸市の市営住宅でアリガタバチの調査をしていると子供達が寄って来てアアリガタバチアリガタバチとありがた節を歌いながらアリガタバチを見つけてくれる。お母さん方は、この虫はちっとも有り難くないのに何でアリガタバチというんですかと聞いてくる。

アリの形をしたハチという意味ですよという、昔、神戸ではやったアリがた節と関係があるのかと思った



クシヒゲシバンムシ幼虫

と話していた。

調査している内にクロアリガタバチのほかにシバンムシアリガタバチ、トビイロアリガタバチ等も見つかり、アリガタバチが寄生するシバンムシもクシヒゲシバンムシのほかにタバコシバンムシやジンサンシバンムシ、天井の中にいるマツザイシバンムシ、さらにシンクイムシ、ヒラタキクイムシ等にも寄生しているアリガタバチも発見された。このアリガタバチは雌だけが産卵管で刺して毒液を注入するので女性や子供に被害が集中した。

刺される時間帯は昼夜を問わず、発生時期は2月～11月と長く6～9月頃が一番被害がひどかった。

神戸市の住宅局では、アリガタバチは新築の市営住宅の畳について来たものとして、畳を調査してアリガタバチまたはシバンムシの発見された家は公費で駆除を行っていた。

(神戸大学医学部医動物学教室非常勤講師 田中正郎 サンヨー環境(株)社長)



サンヨー環境株式会社

〒652 神戸市兵庫区島上町2-1-27 リッツ島上  
TEL (078) 672-0330(代表)

(環境をより良く、快適に) 衛生管理はお任せ下さい。  
ネズミ・ゴキブリ・シロアリ・あらゆる害虫の駆除  
樹木の害虫・カビの防除・貯水槽の清掃  
食品・環境の微生物検査(食中毒対策は、万全ですか?)



■神戸の工房をめぐる 〈その2〉

# フランスパンとコーヒーの職人たち

福元早夫

〈作家〉

撮影／森田篤志



↑自然の恵みと人間の知恵が創造する食文化。食べることは生きることである  
←ドングのポリシーは自分のために一杯働くこと



パンは生きもの。それぞれの個性をもっている



## ★DONG(ドング)

フランスパンを日本で初めて焼いた工房『ドング』の発祥の地は、三宮センター街から元町へむかう西の角地にあった。トアロードに面した一角である。日本にフランスパン・ブームをつくったドング製のフランスパンは、『皮はバリバリ、中身はフワリやわらかい』のキャッチフレーズの通り、表皮(クラフト)と内相(クラム)の絶妙なバランスが楽しめて人気があり、観光客や地方から神戸へ来た人たちが立ち寄っていくという。

「一九七〇年(昭和四十五年)の万国博覧会でドングがテナントを出してから、フランスパンが一躍有名になりましたね。あれ以来、日本人の朝食のメニューをすっかり変えてしまいましたよ」

マネージャーの増田普三さんは胸をはってから説明をつづけた。

「グルメの本場フランス仕込みのおいしいパンを、神戸のハイカラさんたちから全国に伝えたドングの歴史には、職人たちのプロ意識がこめられていますからね。小麦粉と卵、砂糖とバターといった、自然の中から生まれた最高の素材を、パンや菓子に生かしていますよ」

パンの歴史は古く、小麦栽培が最初におこなわれたメソポタミアで、六千年ほど前に発祥したといわれている。古代エジプトではパンの製造が行われ、中王国時代(前22〜前18世紀)には発酵パンも作られていたという。だが、古代から中世を通して、パ



全国60余店のインスタ・ベーカリーは日本一。作りたてのパンや菓子が店頭と並ぶ



手仕事だから楽しい。よろこびは自分の気に入ったパンが焼けたとき



↑伝統的な技術はドンクの大財産  
←ヨーロッパから技術者を招き、最新の技術を学んでいる

ンは庶民のものではなかった。人々は小麦以外の、雑穀を粥にして食べていた。

しかし、時代の変化にともなってパンは広い層へと浸透し、庶民もパンを渴望するようになった。一七八九年十月、女性を中心にしたパリ市民は、「ベルサイユ行進」を行ってパンを要求し、フランス革命の口火を切ったのである。

案内されて五階の工房への上ると、職人気質そのものの辻本さんが、窯から食パンを取り出しているところだった。

「ドンクの食パンはストレート法（直捏法）で作られますから、小麦の味と香りを最大限に引き出していますので、毎日食べても飽きない風味が魅力なんです」と自慢顔で辻本さんはいって「パンは生きもので、その日その日で状態がちがうんですよ」と表情をきびしくした。彼はこの道五年だという。フランスパンの製造技術においては、常にナンバーワンでありたい、とつけ加えた。その彼に、フランスパンができるまでの工程を聞いてまとめてみた。

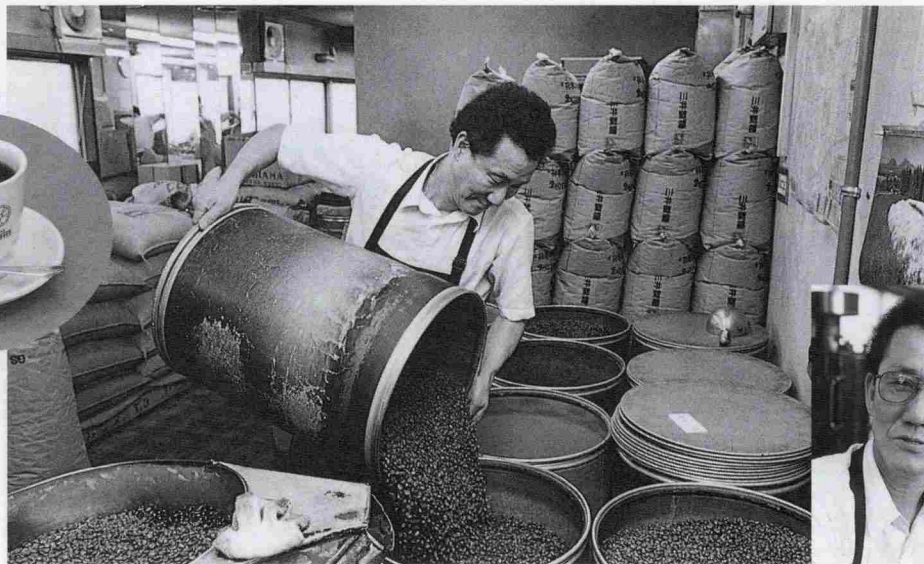
はじめの仕込みで、小麦粉などの材料を計量してミキサーにかけてこねる。つぎが第一次発酵で、生地をフランスパン独特のおいしさと香りが生まれる大切な工程だから、約三時間かける。つぎの分割と成形では、パンの種類別に生地を分け、それぞれの形をつくる。成形したパン生地をさらに一時間かけて自然発酵させ、さらに形をととのえる。最後は焼き上げで、蒸気窯の中に入れて一定の温度と時間で焼いていくのである。小型パンは約十五分から二十分で、大型は三十分から四十分かけるという。

「早朝六時に出社して仕込みにかかり、焼き上げにはいるのは八時半ごろで、午後三時ごろまで焼きつづけるんです」

焼きたての食パンに温かい目をむけて辻本さんはいった。ドンクの創業は明治三十八年（一九〇五）である。それ以来、ヨーロッパの伝統的な技術とセンスを導入し、食文化を通じて人々の暮らしに夢とコミュニケーションを創造しつづけているのである。



にしむらがブレンドからストレートコーヒーを提案した事実はあまり知られていない



お客様に喜んでもらえるコーヒーづくりに全神経をとがらせる



一流のコーヒーは一流の職人の手がつくる

# ★にしむら珈琲灘工房

にしむら珈琲店で使われているコーヒー豆のほとんどは、大石東町の都賀川のほとりにある灘珈琲工房で焙煎されているという。国道四十三号線に面したそこでは、焙煎業務のほかにも一般向けに各種のコーヒー豆の挽き売りサービスも行っており、販売店舗としても親しまれて客が出入りしていた。

「コーヒーの味は生産の段階で決まるといわれています。それだけに良質の豆を見抜くテクニクを持つこと、その生豆を入手するためのルートを確保すること、この二つがプロとしての最も重要な課題なんです」

工房内を案内しながら泉谷義美さんはきっぱりといきった。この道二十六年の超熟練者で、笑顔がじつによく似合う。焙煎中のコーヒー豆の色づき具合を、専用の器具で取り出して確かめてから話をつづけた。

「安定した品質の豆を手に入れるため、ブラジル、コロンビア、グアテマラといった原産国からの情報を確保して、にしむらブランドにふさわしい高品質な豆だけを厳選して仕入れています」

ロースター（焙煎機）のなかで熱を加えられた豆が、パチパチピチピチと踊り、色づきを増して芳しい香りを放ちはじめた。泉谷さんはロースターに緊張の目を光らせた。

原産国でのきびしい選別を受けて神戸港に陸揚げされたコーヒー豆は、倉庫で約一年間のエージング（寝かせる）を行い、じっくりと熟成されるのだという。その後、豆の持っているエネルギーを最大限に引き出すための焙煎が、ここで行われるのである。異物をていねいに取り除き、ロースターに投入された豆は加熱されて色づき、コーヒー独特の香りを放ち始める。

ピチピチ、パチパチ、ピチピチパチパチと熱を加えるごとに豆が踊り、音が微妙に変化していくのがわかる。サンバからルンバへと踊っていく気がする。

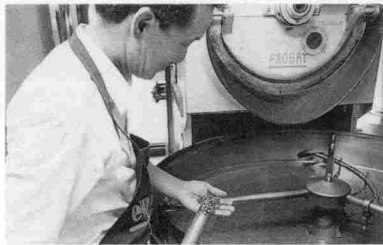




70キロ入りのコーヒー豆がやがて眠りからさめる



灘珈琲工房はにしむらのすべて



職人の確かな目が光る



ロースターからとびだしたコーヒー豆が生き物のように踊る



入荷量が多いとうれしい。ファイトが満く

工房内はコーヒーの香りが満ちあふれて、酔ってしまいそうである。

「この豆の鼓動を聞き分けながら、焙煎時間を調節してテイストを仕上げてゆくんです。酸味、苦味、甘味、香り、コク、と豆の持ち味の中からどれを強調してどれを引くのか、そのスリル感たっぷりの駆け引きから、にしむら珈琲独自の個性が誕生するんですよ」

焙煎を終えて冷却に移されたコーヒー豆を満足そうに見つめながら、泉谷さんはきっぱりといきった。自信にあふれている。

コーヒーの原料植物には数種あるが、アラビアコーヒーノキが世界生産の九〇％を占めるという。それはエチオピア原産のアカネ科の常緑で、四メートル前後の低木である。ヨーロッパでコーヒーが飲料とされたのは十五世紀以降のことである。ブラジルにアラビアコーヒーノキが導入されたのは十八世紀で、本格的な栽培は十九世紀になってからである。日本では明治以後で、一八八八年（明治二十一年）東京上野に『可否茶館』（カッヒーさかん）が開店してから飲料が広まったといわれている。

常温に冷却されたコーヒー豆を専用の収納筒に移しながら、泉谷さんはよく似合う笑顔で楽しそうに身体を動かしながら、

「若いころから焙煎をやったかったです。喫茶店で仕事をするなら、コーヒー工房を知りたいですよ。ここでは手づくりの、愛情のこもったコーヒーづくりに専念しています」といってほほ笑んでからつけ加えた。

「朝は六時ごろから仕事にかかって、昼ごろまでに焙煎を終え、十キロ入りのコーヒー豆を二百から多いときには三百袋全国に配送しています。ですから一ヶ月に九千キロになります。それを一人でまかっているのが誇りですね。やりがいがありますよ。夢ですか、原産地へ行つて、コーヒーノキをこの目で見ることですな」

短篇小説

## 塔

木村光理

「くるくる回る塔があるんです。石でできている塔なんです。そこに登るとですね、港が見えるんです。嬉しくなってくるほどはつきりとですね。きれいですよ。夜はとくにきれいです。ネオンとかがね、いろんな風に海面に反射して。まるで……」

パブで相席になった男が、益田にふいに話しかけた。

「そうですか」

益田は、目の前の男に曖昧にほほ笑んだ。彼はビールを前にさつきから考え事を続けていた。

ふいに妻が離婚を切り出したのはちょうど一カ月前。テレビのプロ野球中継をビールを飲みながら見ていると、

「この新聞記事だと夫婦の四分の一が離婚するんだって」

と、妻が何げなく言った。

「随分多いんだな」

益田はテレビの画面から目を離さずに答えた。

「アメリカだと二分の一だって。あたしたちもこの四分の一に入るかもしれないわね」

「僕らが？」

「そうよ」

「過激だな」

「だって、あなたにとつてパブトナ―は誰だつてよさそうだし……」

「そんなことはないよ」

「とにかく、あなたと一緒に暮らす必然性がないのよ」

「必然性？」

ビールの酔いで赤かった益田の顔が白く変わった。

「だって、結婚してまだ二年半じゃないか」

「長さの問題じゃないの」

「大きな喧嘩だつてしてないし、結構うまくやってきたじゃないか」

「でも、人生は一度しかないって言うし。お互いやり直せるうちにやり直しましょうよ」

妻は、さらりと言つてのけた。それを半ば冗談だと益田は受け取った。しかし、妻は本気だった。翌朝早く実家に戻ったまま、彼女は一カ月がたつのに戻つてこなかったのだ。それでも、益田が電話をかけると親しげに話した。気に入つたテレビ番組やフアッションの話を長々と続けることもあった。そんな時、益田はこれで大丈夫だと思つた。しかし、帰つてくるよう促すと、妻はきつぱりと拒んだ。それどころか、そのうち離婚届を送るから、ちゃんとハンコを押してね、と付け加えた。

「塔そのものはきれいじゃないですよ。ポロポロの塔なんですよ。中に入ると、壁が落ちたり、染みが浮き出たり」

男は上着の内ポケットから白い紙袋を取り出した。

「薬を飲む時間なんですよ。三時間おきなんです。でも、飲まないといやばいんです、背中の調子がどうも」



「背中の方？」

「ええ。飲まないで完璧に駄目になるって。悪い奴じゃないんですけど、言葉使いが荒っぽいんです。死ぬぞ、死ぬぞ、って脅すんですよ」

「ひどいんですか、その医者」

男は、湯割りの焼酎と一緒に、三種の異なる色の丸薬を飲み下した。

「あいつは医者じゃないんだけど……まあいいか。ところで、わたし何の話をしましたっけ」

「塔でしょ」

「ですよ」

男は笑った。益田は目の前のビールの残りを飲み干すと、ちらりと腕時計に目をやった。団地行きの最終バスの時間が迫っている。益田は椅子から立ち上がろうとした。その時、男が益田の腕をギュッと掴んだ。猛烈な力だった。

「痛い！」

益田は思わず叫んだ。

「オーバーですよ」男はほほ笑みながら言った。「ちょっと触れただけなのに」

男が手を離すと、掴んだ跡が益田の腕に赤い筋になって残った。針金のように瘦せた男のどこにそんな力が隠されているのか、益田には不思議だった。

「失礼な人だな、あなたは。まだ話を続けてるんですよ。それなのに」

「悪いけど、行かないといけない

です」

「もう十時ですよ。今から行くところなんてあるんですか？」

男は探るように益田を見た。

どうして、こいつにこんなことを尋ねられなきゃならないんだ。折角一人で気持ち良く飲んだのに。益田は沈黙したまま、空になったグラスを見つめた。そこには、バブを埋め尽くす酔った姿が映っていた。

「はあ、さては恋人に会いに行くんだ。そうなんだ」

「違いますよ」と、益田は言った。

「違う？……だろうな。そんな風には見えないし……そうか、わかった！ あれなんだ。わたしと話をするのが嫌なんだ。だから、そんな風に」

「べつにそんな」

「だったらきちんと説明してくださいよ。わたしにだって都合があるんだから。あなたのことは構っていいられないんだし」

そう言うのと、男は真正面から益田を見つめた。

「だから、そろそろ家に帰らないと……バスがなくなるんですよ。それに、明日は出張だし。いろいろ準備しないと……」

「失礼ですが、ご家族はいらっしゃるんですよ」

男がわざと優しい調子で言った。

「ええ、まあ」と、益田は答えた。





実家に帰ったままの妻の顔が一瞬浮かんだ。

「奥さんに電話してですね、準備してもらえば……それとも、何か頼めない事情でもあるんですか」

益田は、男の目が「瞬キラリと光ったような気がした」。

「別にないも」

益田は慌てて否定した。

「だったらいいじゃないですか、少しくらい付き合ってくれたって。あなたには家族がいるんですよ。わたしなんて……寂しいものですよ、この歳で独り身なんて」

「……でも、その分自由がある」

「まあね。だから、後悔はしてないんです。気楽にやってきたし。ほんと自由気ままだし。好き勝手ができるし。一緒に暮らそうがどうしようが、死ぬ時は結局ひとりぼっちなんだから。ですよね」

「ええ」

「でもね、部屋に戻ると、なんとなく……なんて言ったらいいのかな……人っ子一人いない遊園地にいるみたいな。客がいないと遊園地だって楽しくないでしょ」

「ええ」

「同意してくれるんですね。嬉しいな。……港の近くに立ち入り禁止になってしまった遊園地があるで

しょ。あれ知ってます？」

「いえ」

「わたししばらくそこにいたんです。世の中がこんな風にコンピュータ仕掛けになる前ですから骨董品みたいな乗り物しかなかったけれど。あそこ、閉鎖中なんですよ。もう二年近くになるかな。あそこのローラーコースター、昔はすごく人気があってね。いつだって行列ができてたな。海に向かって真つ逆さまに落ちていく感じが素敵だって。塔はあのローラーコースターの脇にあるんですよ。目立たないけれど。でも、残ってます」

「よきそうですね」

「だったら行きましょう」

「でも、今日は」

「面白くない人だな、あなたって。だから愛想を尽かされるんだ」

「えっ？」

「いえ。だから、ここから少し歩いたところに自転車が何台も捨ててありますから。どれか気に入ったのを選んで乗ってほしい」

益田は壁の丸時計に目をやった。もうすぐ団地行き最終バスが出る時刻だ。益田はレシートを手に立ちあがった。男も続いて立ち上がった。「あれ、バベルって呼んでるんです」支払いをしている益田の後ろから男が言った。

「何がです？」

「だから、塔ですよ。さっきから話してるでしょ。後ろの空き地には五



本の高い木が生えてるんです。さつきも説明したでしょ」

「いいえ」

「嘘だ。さつき言ったじゃないか。私の話を聞いてないんだ。自分のことにしか興味が無い。だから、家族ともうまくいってない。そうでしょ。そういうタイプなんだ」

「違いますよ」

「そうかな」

「とにかく、帰らないと。それに、なんて言ったかな、バブル？ そんなの、聞いたこともない」

「あなたが知らないだけでしょ。自分が知らないからって……。つまり、わたしがいい加減なことを話してるって内心思ってる。そうでしょ。そうなんですよ」

「とにかく、時間がないんだ」

「嫌だなあ。時間、時間って」

益田は男を無視して、バブルの扉を押した。男もすぐ後に続いた。

「本当に興味はないんですか。塔に上れば、信じられないくらい美しい海が見れるのに。それに……」

「……」

「どうしても行くんですか。そんなことでいいんですかね。わたし、話の途中で腰を折られると、妙に悲しくなってくるんです。なんたって見てのとりの境遇だから。若作りはしてるけど、見かけよりずっと歳もとってる。そんな人間を助けようって気があなたにはないんですか」

「そんなこと言われても」

「もし、わたしを助ける気があるのなら、一緒にあの塔まで行きましょう。そうすれば、あなただってきつと満足するはずですよ」

「悪いけど、僕でなくて誰か他の」

「そういうわけにはいかないんだな。あなたでなきゃ」

益田は男の言葉を無視して速足でバス停に向かった。停留所が見えるところまでやって来ると、最終バスは発車しようとする寸前だった。彼は手を振りながら、待ってくれ！と大声で叫んだ。顔馴染みの運転手は益田の姿に気づき、バスの発車を遅らせた。益田は息を切らせながらバスに乗り込んだ。

席に座ると、益田はほっと息をついた。助かった、変な男に捕まっていたけれど、なんとかやりすごせたと、最終のバスにも間に合った。今日は、まあまあ的一天だな、と益田は思った。

そんな益田の姿を、男がビルの陰からじっと見つめていた。バスが見えなくなると、男は深い溜め息を吐いた。

惜しいことをしたな。せっかく、塔の屋上であの男の妻が待ってるっていうのに。

男はそつと自分の肩に手を触れた。そこには、古びて干からびた羽が二つ生えていた。